

## 6・3 貨物の安全な積み付けおよび運送

### 6・3・1 危険物の運送

国際航海における危険品の海上輸送は、固体ばら積み貨物については国際海上固体ばら積み貨物規則(IMSBCコード:The International Maritime Solid Bulk Cargoes Code)、個品危険物(コンテナ)については国際海上危険物規程(IMDGコード)、液体ばら積み貨物については危険化学品のばら積運送のための船舶の構造および設備に関する国際規則(IBCコード)に詳細な要件が規定されており、IMOの貨物運送小委員会(CCC:Sub-Committee on Carriage of Cargoes and Containers)と汚染防止・対応小委員会(PPR:Sub-Committee on Pollution Prevention and Response)において、定期的な見直しが行われている。

#### 1. IMDGコード(国際海上危険物規定)改正

同コードは、危険物運送の実態等に対応して2年毎に改正が行われており、第42回改正は、2024年5月に開催された第108回海上安全委員会(Maritime Safety Committee: MSC 108)にて採択された。国際海上危険物(IMDG)コードの改正は2026年1月1日に発効したが、一部の締約国は2025年1月1日よりこれらの改正(またはその一部)を任意で適用することができることとなっており、日本においても本改正を取り入れ、2024年12月27日に船舶による危険物の運送基準等を定める告示の一部改正が公布され、2025年1月1日から施行されている。

IMDGコード第43回改正案は2025年9月の第11回貨物運送小委員会(Sub-Committee on Carriage of Cargoes and Containers: CCC 11)にて議論が行われ、2026年9月開催予定の第12回貨物運送小委員会(CCC12)へ報告される予定となっている。

#### 2. IMSBCコード(国際海上固体ばら積み貨物規則)改正

IMSBCコードは、穀類を除く全ての固体ばら積み貨物を対象に、2011年1月1日に強制化された。荷送人は船長に対し貨物の詳細な情報を提出し、船長は、物質ごとに定められた要件に従って運送する義務を負う。貨物種別としては、3種類に分類される。

種別 A : 液状化のおそれのある物質 (例:ニッケル精鉱)

\*) 運送中に液状化した場合の危険性が特に高い為、特段の措置を要求

種別 B : 科学的危険性を有する物質 (例:石炭)

種別 C : AまたはB以外の物質 (例:鉄鉱石)

同コードに掲載されたもの、及び、荷積み国主管庁の承認を受けたもののみが船舶にばら積みして輸送できることとなっている。

このことから、コード未採用の貨物の詳細要件については各国からIMO提案が提出され、CCCにおいて審議、MSCにおいて採択されている。

IMDG コードと同様、2 年毎に改正が行われており、第 8 次改正による最新のコードは、2027 年 1 月 1 日が発効日となっているが、日本においても 1 年前倒しの早期運用が適用され、2026 年 1 月 1 日より施行された。

## 6・3・2 ISO/TC104(貨物コンテナ)に関する対応

### 1. ISO/TC104(貨物コンテナ)の概要

国際標準化機構(ISO)の中で 104 番目に設置された専門委員会(TC)である TC104 は 19 カ国の正式加盟国(P メンバー:業務に積極的に参画し、規格投票に対する債務および可能な限り会議に参加するメンバー)および 31 カ国のオブザーバー加盟国(O メンバー:オブザーバーとして業務に参画するメンバーであり、意見提出、会議出席の権利を有する)にて構成され、貨物コンテナ、特に海上コンテナに関する標準化について審議している。傘下に 3 つの小委員会(SC)および 10 のワーキンググループ(WG)が置かれている。

当協会は、日本工業標準調査会(JISC: Japanese Industrial Standards Committee)の承認の下、TC104 の国内審議委員会「ISO コンテナ委員会」の事務局を務めている。

ISO/TC104“貨物コンテナ”	(ANSI(米国規格協会))
SC1“一般コンテナ”	(AFNOR(フランス規格協会))
WG1“一般貨物コンテナ”	(AFNOR)
WG2“取扱いおよび固縛”	(AFNOR)
SC2“特殊コンテナ”	(BSI(英国規格協会))
WG1“冷凍コンテナ”	(BSI)
WG4“タンクコンテナ”	(BSI)
WG7“ドライバルク貨物コンテナ”	(BSI)
SC4“識別および通信”	(AFNOR)
WG1“コード、識別および表示方法”	(AFNOR)
WG2“コンテナおよび付属品に関する AEI”	(AFNOR)
AHG1“TC104 再活性化”	(ANSI) <2022 年新設>
CAG“委員長諮問委員会”	(ANSI)
WG9“ISO830(用語)改訂”	(ANSI) <2022 年新設>

( )内は事務局

### 2. ISO/TC104 の活動状況

ISO/TC104 年次総会は、2025 年度中は開催されていない。

一方、傘下の SC/WG では活発な議論が行われ、主な進展として、SC4 においては、2025 年

11 月に「ISO 6346(貨物コンテナコード、識別および表示)」について、DIS(国際規格案)の投票が実施され、これが承認された。また、SC4/WG2 においては、2026 年 3 月、「スマートコンテナの技術仕様(TS 25287)」について、WG における議論が成熟したとして、CD(委員会原案)の段階を省略し DIS の作業に進むことの投票が行われ、これが承認された。